

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600155		
法人名	社会福祉法人ひとつの会		
事業所名	グループホーム自由の杜		
所在地	山口県防府市大字大崎801-1		
自己評価作成日	平成30年4月30日	評価結果市町受理日	平成30年11月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年5月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「喜怒哀楽」を柱として、利用者お一人おひとりの思いを大切に、個性を尊重しながら、利用者皆様が明るく生きがいのある生活が送れるように支援を継続しています。楽しみ作りとして年間の企画を立て、1年を通し四季を感じられるようにホーム内での行事や外出、また地域の自然を感じられる散歩や、畑づくりを行い、沢山の思い出が作れるような取り組みを継続しています。、様々なお一人おひとりの過ごされ方があり、日々利用者と職員との笑いあふれる会話があり、毎日お互いが明るく楽しく時間が過ぎていきます。生活を共にされる利用者同士が顔なじみの関係で、おひとりおひとりができる事を行いながら、お互いに助け合い、支え合いながら、安心できる心地よいホーム作りを支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年、暮れには、地域の人がしめ縄づくりの材料を持参して来訪され、利用者や職員と一緒にしめ縄飾りをつくっておられます。拠点施設での夏祭りは、地域の人の協力を得て開催され、マジックショーや三味線の演奏、餅まき、バザー等に、多くの地域の人や子ども達が参加され、利用者も参加されて楽しんでおられ、地域とのつながりを深めておられます。小学生や中学生の職場体験を受け入れられたり、月1回、手芸ボランティアが来訪されて、利用者と一緒に貼り絵の鯉のぼりや下げもんなどの季節に合わせた作品づくりをしておられるなど、利用者が多い人達との交流を楽しみながら、日々を過ごせるよう支援されています。徳佐のリング狩りや徳地の花火大会、四季の花見(芝桜、紫陽花、コスモス、紅葉、しだれ梅など)など、利用者の一人ひとりの希望や状態に配慮されながら、戸外に出かけられるように支援に取り組まれています。拠点内研修は、毎月同じテーマで4回ずつ実施しておられ、全職員が参加できるように工夫をされて、職員のスキルアップに取り組まれています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念 喜怒哀楽の実践の継続を行い、毎日表情豊かな日々を送っていただけるように努めている。職員は毎月ホーム内行事や外出を企画し、利用者とともに職員も一緒に楽しみ、喜びを分かち合えるように勤めている。自然あふれるホーム周辺の散歩をしたりしながら四季折々の自然を感じ、この地域で生活を送る事に安心でき、笑顔の絶えない生活を送られるように支援している。	事業所独自の理念「喜怒哀楽」を月1回のミーティング時や日常のケアの中で確認し、利用者一人ひとりの思いや習慣を大切にしてい、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の方にも馴染みある施設として、関係を継続できるように努めている。地域の方々にご協力いただきながら、日本の四季折々の行事を企画し夏祭りやしめ縄飾り作り等での交流を深めている。様々なボランティアの方や地域の方々の施設見学者など、ホームへ多くの来訪があり、閉鎖的ではなく開放的な施設として、ホームの利用者が地域の方々と交流できる機会も多く持てるように努めている。	自治会に加入し、自治会だよりや回覧板で行事などの情報を得ている。毎年、暮れには、地元の方がしめ縄の材料を持参して来訪し、利用者や職員と一緒にしめ縄飾りをつくっている。拠点施設での夏祭りは、地域の人の協力を得て開催し、ボランティアによる踊りやマジックショー、三味線の演奏、利用者も参加して劇、餅まきなど、地域の人や子供も参加して交流している。小学生や中学生の職場体験の受け入れの他、市の中堅職員の研修の受け入れもしている。月1回、手芸ボランティア2名の来訪があり、季節毎の作品づくりを通して、楽しくふれあっている。近所の神社までの散歩時や買い物時に地域の人と挨拶を交わしている他、野菜や果物、花の差し入れもあり、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	29年は認知症サポーターキャラバン講座を、地区の公民館、自治会の会館で行い、地域の方々に認知症の方との接し方などお伝えをし、これからの社会では地域全体で認知症高齢者を支えていくことの重要性をご理解いただきながら、住民の方と意見交換する機会を持った。毎年夏祭りも企画を見直しながら開催し、地域の方々の来訪も多く、地域の夏のイベントとして認知していただけってきた。地元の小中学校の生徒たちの職場体験も継続し、次世代の子供たちに福祉の現場に触れる機会として、主に利用者の方々とふれあいを持っていただき交流ができるように努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価については意義を理解し、自己評価内容は各職員各々が自分自身を振り返るために必要なことであると理解し、また改善できるように努めている。、日々の実践を振り返りながら、自分たちの実践している内容を確認しながら記入している。	管理者は全職員に評価の意義について説明をし、管理者が全項目を記入した自己評価をするための書類とガイド集を全職員に配布し、朝礼時や日常業務の中で聞き取り、まとめている。前回の評価結果について話し合い、ヒヤリハットの捉え方を共有するための方法や報告書を書きやすくするために、ヒヤリハットの様式の変更についての検討をして、新しい様式を取り入れるなど、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行うにあたり、毎回行事等の報告の他に、事故報告、ヒヤリハット報告の検証や、事業報告、事業計画など色々と報告する内容を変え、意見交換を行いながら、日々のサービスに活かせるように取り組んでいる。外部評価についてや日程及び内容、結果もその都度会議の場でご報告を行っている。	自治会長、2名の民生委員、小学校の校長、居宅のケアマネジャー等の参加を得て、会議は年6回、併設施設と合同で開催している。利用者状況、行事報告、介護保険の改正、外部評価の結果などについて報告し、意見交換をしている。メンバーから地域の行事等の情報をえて、日々のサービスに活かしている。防災訓練時に、消防団員以外にも運営推進会議メンバーの自治会長や民生委員の協力を得たり、連絡網への加入など、災害時の地域との協力体制を構築しているなど、サービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの認知症サポーターキャラバン講座の依頼を受け開催を行っている。また市の職員の実地研修の受け入れも行い、事業所の取り組みや業務内容など直に感じてもらいながら、お互いに立場を外し、意見交換を出来るように取り組んでいる。	市担当者とは、運営推進会議時や出向いて相談し助言を得たり、情報交換をしている他、市の中堅職員の研修の受け入れなどで事業所の理解につねげているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、認知症カフェへの協力や利用者状況についての情報交換しているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について法人研修、内部研修に学ぶ場があり、個々を見直す機会をもっている。また日々の業務の中で、意見を出し合いながら、スピーチロック等気づけるように取り組んでいる。玄関の施錠等、行えない事のグループホームとしてのケアのあり方も常に念頭において、事故対策を行う様に努めている。	拠点内研修で身体拘束の研修に取り組み、全職員は理解をして抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気になる時には、管理者が指導している他、職員間で話し合いをしている。玄関の施錠はしないで、外出したい利用者とは職員と一緒に出かけたり、気分転換の工夫をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員は法人研修、内部研修に学ぶ場があり、参加を行うようにしている。また各入居者の担当者が中心になり、意見を出し合いながら、虐待に当てはまるのではないかと考えながら、方向性をしっかりと持ち、その方にとって安心した生活を送られるように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での定期的合同研修や、法人の定期合同研修へ職員は参加をしている。また参加できなかった者に対してもミーティングの際に説明を行い、理解出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、ご家族とホームにて内容等の説明を詳細に行いながら、疑問や不安を解消されご理解を得るように努めている。また契約内容等その時々で再確認できるようご説明を行い理解していただけるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には、相談や苦情に対しての受付体制を作り第三者委員や受付窓口の担当者を明示し、説明を行っている。意見や要望等は職員間できちんと話し合いながら、運営内容に盛りこんで行けるように努めている。個別での対応方法等月1回の報告書に詳細に記入し、現状を把握していただけるようにしている。意見などはしっかりと受け止め要望ばかりを聞き入れるのではなく、記録等用いながら説明を行い、きちんと納得されご理解いただけるように対応している。	契約時に相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きについて家族に説明している。面会時、運営推進会議時、議事録送付時、事業所だより(月1回)送付時、電話等で家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。ケアに関する要望や意見は介護記録や経過記録を用いて家族に説明をし、その都度対応して納得を得ている。運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員に人事考課シートを配布し、提出後施設長が個別面談を行い、意見を話せる機会を年2回設けている。また職員に月ごとに、外出行事やホーム内行事、昼食の日の献立など役割が有り、運営に携わりながら、得意分野を活かしやりがいの持てる職場作りを心掛けている。職員が担当している利用者のケア方法など、中心となり検討し思いや個性が、出せる機会を多く作るようにしている。意見や提案を様式に記入し職員全員で回覧を行い、改善及び工夫出来るように努めている。	管理者は毎朝の申し送り時や月1回のミーティングで職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。施設長は、年2回個別面談を行い、職員からの意見や提案を聞いている。職員は、「温故知新の書」で意見や提案を市、全職員に回覧して共有している。共用場所の整理方法や温タオルをいつ提供するのが利用者にとって最適なのかなどを話し合っ、支援に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は出勤日には必ずホームに立ち寄り、記録など目を通し職員とも話す時間をとっている。意見や希望を聞いたり、得意分野を活かせ、やりがいの持てる職場づくりに努めている。法人の週1回の統括会議において現状を報告し、職場の問題点を報告し、具体的な改善対策等法人幹部などと話し合いを行い職場環境や問題点等の改善に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1日法人での全体会議が行われ、様々な内容の研修を開催し、職員教育の場を設けている。併施設との合同研修も行い、各職員のスキルアップに努めている。また外部の研修へは勤務の一環として多く参加させている。受講後は復命報告を提出し、他の職員にも回覧して情報共有を行っている。技術、対応法等はその都度職員同士で意見を出し、介護技術等検討しながら身につけるようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は月1回のミーティング時に復命をして、資料は閲覧できるようにしている。月1回の法人研修(腰痛やドッグセラピー等)には希望する職員が参加している。拠点内研修は、毎月、緊急時の対応、ポジショニング、災害時対応、食中毒、ケアプラン、アセスメント、感染症対策(2回)、高齢者虐待(身体拘束など)を外部講師や拠点施設長等が講師となり実施している。同じテーマで4回あり、全職員が参加しやすいように工夫をしている。内部研修は、必要に応じてミーティング時に行っている。新人研修は法人研修を受講後は事業所の資料に基づいて管理者の指導の下、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム協会の勉強会等、勤務として参加、また市や県などの研修会にも参加を推進している。法人内での研修会があり、同法人内の職員同士が、意見交換や交流を持ちながら、良き相談相手として共に向上していけるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時には必ずご自宅、または今生活を送っておられるところや利用されている介護サービスの場所に訪問し、生活環境を把握しながら、ご家族、関係者に現状を伺っている。、またご本人やご家族からの要望等、細かくお聞きし、入居前にスタッフ間で、情報共有を行えるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にしっかり情報収集を行い、必ずご家族にも思いやご要望を伺っている。面会の時間を特に決めておらず、夕食後でも面会でき、どの時間帯でも来れることで、安心していただけるようにと考え継続している。ご家族へは、状況報告を密に行い、また希望や要望などを伺いながら、安心していただき、信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報を、職員が共有し支援の内容を考え、対応できるように話し合いを行っている。その後サービス内容の変更が必要だと思われる時にはその都度ご家族には説明をし、今現在のご本人の状況を報告を行い、ご理解していただけるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの共同生活の中で、ご本人の出来る力を把握し、様々な役割を持っていただけるように支援している。1日の全般をホームの共有スペースで過ごされる方が多く、毎日午前レク、午後レクを行い、利用者様と職員と一緒に楽しみ会話する時間が持てるように支援をしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも、また何か問題が起きた時にも、その都度ご家族にお伝えし、まずはご本人の気持ちを考え、対応の変更も報告している。利用者様を支えていくために、現状を把握していただき、共に支えていく関係作りを構築していくように取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に年賀状は、利用者様おひとりおひとりが、自筆で書いたり、印判やシールなどを貼り、個性あふれたお手紙を作成し出していただくようにしている。、面会者にはゆっくりと、ご本人とくつろいでいただき、以前の思い出話ができるように配慮している。また会話が弾まれるように、ホームでのご様子など、生活風景の写真を一緒に見られながら、職員も席を共にでき、お伝えできる時間を作れるように取り組みを行っている。外出行事の場所を選定する際には、利用者様のご希望も取り入れながら、楽しんでいただけるように企画を立案している。	家族の面会や親戚の人、近所の人、知人、昔の職場の同僚などの来訪がある他、電話の取り次ぎや手紙などでの交流を支援している。行事や生活風景の写真を面会時に家族と一緒に見てもらい、関係継続の支援をしている。思い出の場所へのドライブ、家族の協力を得ての一時帰宅、外出、外泊、墓参り、葬式や法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにはそれぞれの方がくつろげる居場所があり、一緒に食事をしたり、洗濯物をたたんだり、野菜の皮をむいたり、貼り絵をしたり、生活を送る中での場面によって、色々な方と席を共にされ、関係を築かれるように気を配りながら、支援を行っている。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時には、アンケートをお渡しし、ホームに対しての意見をいただき、見直しを行う様に努めている。またご家族の方より、お便りをいただいたり、訪問された場合は、以前と変わらない関係を継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は業務優先とせず、日頃から利用者との関わりを大切にし、利用者の思いや言葉などを記録し、職員同士で共有できるように心がけている。また言葉で表す事が困難な利用者様に対しては、些細な行動や仕草などに気を配り、職員間で意見を交換しながら気持ちを把握し、支援できるように努めている。各入居者の担当者が中心となり意向に沿った1日の過ごされ方のリズム表の作成及び見直しも随時行っている。	家族から生活歴や暮らし方、生活環境等の情報を得て、アセスメントシートやセンター方式シートに記入して活用している他、日々の関わりの中での利用者の会話や様子、職員の気づきなどを、24時間シートや介護記録、経過記録に記録して職員間で共有し、利用者一人一人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、利用者の表情や言動から推し量り、職員間で本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集は行ってはいるが、日々の会話で、収集した内容などに関してなど、面会時にご家族、知人の方と会話に交じらせていただき、話を伺う時間を儲けるようにしている。昔の思い出話などから新たな情報が得られることも多く、しっかり職員間で、情報共有出来るように記録とし残している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりに身体記録、経過記録があり、身体記録には食事(水分)摂取量やバイタルなど、身体の状況がわかるようにまとめ、ホームでの役割や1日をどのように過ごされたかや、個々のもてる力を記入でき、情報共有を行っている。1日の生活リズム表を基に1日何もされずに過ごされる事がないように日々支援を行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよい生活を送っていただけるように、担当者を中心にその都度、問題やケアの方法などを検討している。利用者の状況把握のためのシートなどを活用し、計画作成担当者、担当者が話し合い、介護計画を作成している。また24時間シートを活用し、月1回のミーティングやカンファレンスなどで、利用者様の現状に合う支援について話し合い、職員全員が理解し、ケアの統一が行えるように取り組みを行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に全職員で本人の状態応じての随時のケアカンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や訪問看護師の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。月1回のミーティング時には、利用者の現状について話し合い、共有して支援に取り組むようにしている。24時間シートを活用して支援内容を検討し、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、期間に応じた見直しをしている他、利用者の状態や要望に応じて、その都度の見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体記録、経過記録、申し送り予定表(24時間シート)、排泄表など利用者様の日々の状況を詳しく記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また、利用者様の日々の様子や変化を見ながら、既存のケアにとらわれず新しい取り組みを行えるように努めている。、ケアの方法の変更時などは、温故知新の書という書類を活用し、リアルタイムに実践をして経過を見るようにしている。書類は職員全員が回覧をし意思疎通が出来るように努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、職員同士の連携で優先順位を考えながら、支援を行っている。業務の改善案、ケアの改善案を、その都度スタッフが発案や提案し、確認の上、変更していけるように取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にも自治会長や民生委員の方が来られ、地域の状況も踏まえた意見交換を行えている。開所より毎月手芸ボランティアの方も継続していただき、利用者の方の楽しみの一つにもなっている。また、歌や三味線など定期的に来ていただけるようになり、そのほかお祭りの時など様々なボランティアの来訪もある。併設の特養の入居者の方々と一緒に参加し、地域の中で楽しみが増えるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のかかりつけ医が2週間に1度、訪問診療で直接利用者お一人おひとりを診察され、職員が立会い日々の状況を報告、相談を行い、指示または服薬の調整を行っている。必要時には紹介状で専門医の受診を行っている。訪問看護師の定期訪問も週1回あり、職員からの相談に対し、状況に応じた注意点や介助法などアドバイスをしてもらっている。必要な時にはかかりつけ医に報告を行っている。訪問看護記録に残し、職員全員で回覧をしている。夜間緊急時にはかかりつけ医また訪問看護へ連絡を行い、利用者様が適切な医療を受けられるような体制になっている。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の訪問診療がある。受診時には職員が立会い、利用者の状況等を伝えている。他科受診も事業所が支援をしている。訪問看護師の週1回の訪問があり、利用者の健康管理や職員への指導、助言を得ている。診療結果は介護記録に記入して職員間で共有している。家族には電話で連絡をしている。緊急時や夜間時には訪問看護師、協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1回訪れ、職員からの報告、相談を受けている。記録物に目を通し、意見やアドバイスを職員に直接話したり、また記録に記入し残し、職員全員が共有出来るようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、ホームでの生活の状況や身体状況など情報提供を行っている。入院中も何度かご本人の面会を行い状況を把握できるように努め、退院前には担当医または看護師に情報提供をお願いをし、入院中の状況や、退院後ホームでの生活の注意点を聞く機会を設け、以前のように安心でき、安定したホームでの生活に活かしていけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合についてホームの指針をもとに説明を行っている。また状況にあわせ、その都度新たにご家族とは、今の状況で医療との連携を行いながら、どのような方針で進めていくのかなど話し合いを行っている。また身体状況の変化で医療的管理が必要となった場合、ご家族が今後どうしていきたいのかを聞きながら、併設の特養の相談員を交えグループホームと特養の違いなども理解していただきながら、ご本人やご家族の意向に沿って終末期への方向性を考える機会を設けている。毎月状況は詳細にご報告をしていきながら、ご家族の方にもご協力頂けるように取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における対応の指針」に基づいて家族に説明し、「看取り介護に関する同意書」で意向確認を行っている。実際に重度化した場合は早い段階から家族の思いを聞き、主治医や訪問看護師と話し合いをしている他、職員間でもカンファレンス時などで共有し、医療機関や他施設への移設、看取りについて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時には、報告書に詳細に記入し、その日のうちに職員で話し合い対策または改善が必要ならすぐに行い、再発防止を行っている。また全員に回覧をし共有を行っている。随時ご家族にも報告を行い、対策についても説明させていただいている。ヒヤリハット報告書も事故を未然に防ぐために活用しなければいけないことなど定期的にミーティングで説明また話し合いを行っている。日中、夜間緊急時の対応についても定期的に見直しまた再確認をし、対応法を話し合っている。訪問看護師の訪問の際にも手当、また対応法などその都度指導を受けるように努めている。	事故が発生した場合は、その日の職員間で再発防止策について話し合い、ヒヤリハット、事故報告書に記録し、回覧して全職員で共有している。ミーティング時に1ヶ月分をまとめて再検討して、利用者一人ひとりの事故防止に努めている。緊急時の対応について訪問看護師より止血、低血圧対応等の指導を受けている他、内部研修で緊急時の対応、食中毒、感染症対策(2回)を実施しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との合同で年3回利用者様、職員参加で避難訓練を行っている。昼夜の火災想定や風水害の場合の避難訓練、避難経路の確認、通報訓練を行い、毎回見直し反省を行い次回の訓練に活かせるように取り組んでいる。	年3回、拠点施設合同で昼夜想定火災時の避難訓練を実施し、地域住民の協力を得て、消火器の使用訓練をしている。夜間想定火災時の訓練は宿直職員(地元住人)3人の参加があり、避難、通報、消火訓練を実施している。水害の想定訓練では、利用者と一緒に避難訓練をしている。運営推進会議では災害時の地域との協力方法について話し合いをして、拠点施設としての緊急時の連絡網(自治会長などが加入)や消防団員、地域住民の協力方法について話し合っているなど、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団の中で、ご本人が恥ずかしいと思われないように言葉には十分に気を付け、傍に寄り、話を行いお一人おひとりの人格を尊重できるように努めている。また、認知症の症状にあわせ、その方の状況にあった呼び名をご家族にもお話をし、ご本人が笑顔で安心して生活していただけるように心掛けている。	法人研修で学び、職員は理解しており、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに留意するとともに、職員は守秘義務について理解をし、遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日10時の飲み物はお好きなものを選んでいただいている。入浴も声かけをし、今日はどうされるのかをお伺いし、希望に添えるように支援している。余暇の過ごし方も何をさりたいのかお声をかけ、おひとりおひとりの希望に添えるように支援を行っている。職員は1日の中で何度か選択される機会をもうけ、お一人おひとりの思いを汲み取れるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、今日の予定をボードに記入し、希望があれば記入している。職員は、その日の状況に合わせてチームで取り組み、希望に添えるようにと考え、支援を行っている。誕生日の方にはどこに行きたいか何が食べたいかなど事前に担当の職員が話を伺い1年に1度しかない大切な日を楽しんで過ごしていただけるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際に、必要な生活用品または、衣類などはご本人の希望も伺い、購入を行えるようにしている。活動着や寝巻きは、御自分で見て好みのものを選んで着ていただくように努めている。また、月に1回美容院の方に来ていただき、ご本人の希望に添えるようお願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設特養内厨房より提供となっているが、月に1回は昼食の日として、ホームで希望も入れながら、献立を立て、食事作りを行っている。野菜の皮むき、卵割りなど役割を持っていただき職員と一緒に昼食をつくり、一緒に食卓をを囲み楽しめるように企画を立案している。また昼食の日に限らず、季節のものを美味しく食べるために、畑を作る方、手入れを行う方、収穫される方、など役割を持っていただきながら、畑から採れる野菜を使って、おかずやデザート作りを行ない、出来る事は利用者の方も一緒に行えるように支援している。	三食とも拠点施設の厨房からの配食を利用している。月1回は事業所で利用者と一緒に食材の買い物に行ったり、採れた野菜や差し入れの野菜を使って利用者の好みや形状の工夫をして、食事づくりをしている。利用者は皮むきなどの下ごしらえ、盛り付け、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。利用者の希望に添っての誕生日食や季節の行事食も提供している。採れた野菜を使ってのおやつづくりや干し柿づくり、月1回の外食、喫茶店に出かけるなどの他、家族の協力を得ての外食などで、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体記録には1日の食事摂取量や水分摂取量を記入し把握出来るようにしている。また体調や食事の状況の変化に合わせ、食事の形態や食事量の検討をし、できる限りご自分で食事ができるように変更を行っている。水分量にも常に気を配りながら、随時お勧めをし補えるように努めている。また夜間にも、お聞きし水分をお出しするようにしている。またかかりつけ医の訪問診療の際に体重や水分摂取量などを報告、相談も行い意見をいただくようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け誘導や見守り、入れ歯の洗浄や消毒等も行い、口腔内の清潔保持に努めている。口腔内の痛みまた入れ歯の不具合等利用者の方より訴えがある場合は、協力医療機関の訪問歯科診療を受けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1日の排泄状況は一目でわかるような記録にし、個々の排泄パターンを踏まえながら、声掛け誘導で汚染を防げるように、支援を行っている。トイレでの排泄が行える事が、不安解消につながる事と考え、スタッフが会話からだけではなく、個々の表情や行動を理解できるように努めている。おむつに関しては自己負担ということ、スタッフ全員が理解をしており、適切な使用方法を随時検討し、使用削減の取り組みを行っている。	24時間シートの排泄記録を活用し、利用者一人ひとりのパターンを把握し、声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を確認し、水分はお茶ばかりではなく、便通の良くなるおやつや飲み物などを提供している。毎日の日課として体操は食前に行い、室内レクなど体を動かすことに参加していただけるよう、取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午前、午後、また時間や順番は特に決めておらず、安全に行えるように考えている。お声をかけ承諾いただき、毎日希望されなくても入浴していただけるように努めている。月ごとの入浴回数の集計をし、拒否が多い方は、なぜかを考え、次回にはどのようにしたら入っていただけるのかを、スタッフ同士が意見を出し合い検討し、清潔が保て気持ちよく生活が送れるように努めている。	入浴は毎日可能で、入浴時間はその日の利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援をしている。職員と会話を楽しんだり、ゆっくりと入浴できるように支援をしている。入浴したくない人には、時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫などの支援している。体調に応じて部分浴やシャワー浴などの対応をして、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室 リビングでの休息は、お一人おひとり自由に好きな場所でくつろいでいただけるようにと考えている。夜はゆっくり横になっていただけるようにし、時間を見て居室へ訪室し、睡眠の状況の把握に努め、お一人おひとりの生活習慣を崩されないように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が次の日の薬セットの役割を持っている。薬に関しての情報のファイルがあり、薬の目的、用法、容量などを目で見ることがあることで、入居者の方の病状を理解をしながら、その方の変化や状態を確認している。また服薬方法も個々の能力に合わせ、内服が出来るように支援している。飲みにくい散薬等、内服拒否にならないようお一人おひとりの状況に合わせて服薬の支援を行う様に随時検討も行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの1日の生活のリズムを考え、何事もスタッフで行わず役割が持てるよう支援している。余暇の過ごし方については、入居前の情報やご家族から聞き取った情報を活かせるように、検討を行っている。また今日の予定などを一緒に考え、楽しみが持てる関わりが出来るように努めている。毎月の行事予定を掲示し、外出と一緒に調理を行う昼食の日など、楽しみが多くなれるよう心掛けている。	本を読む、習字、ぬり絵、DVD体操、口腔体操、歌を歌う、卓球、風船バレー、菓子釣り、輪投げ、切り絵、押し絵、ちぎり絵、折り紙、雑巾縫い、片付け、下ごしらえ、下膳、食器洗い、食事作り、おやつ作り、水遣り、草刈り、畑仕事、収穫、季節の行事(雛祭り、夏祭り、敬老会、餅つきなど)など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせて、施設外への散歩を希望に添えるように努めている。また誕生日にはスタッフと事前に話し合い、希望に添える個別外出をしていただいている。外出行事は、見慣れた懐かしい場所、また今しか行けないところなどを企画し、事前に問い合わせ、車椅子の方が不自由にならないように、ご協力いただけるようお願いをし、利用者の方々に負担なく楽しんでいただけるように努めている。	周辺の散歩、神社への散歩、季節の花見(桜、芝桜、しだれ梅、コスモス、紫陽花)、徳佐のリンゴ狩り、徳地の花火大会、併設の特別養護老人ホームに出かけて夏祭り、敬老会、クリスマス会、餅つきなどを楽しんでいる。個別の夕食、誕生日の外出支援などの他、家族の協力を得て外出、夕食、墓参り、外泊、葬式や法事への出席など、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出行事では、昼食に御自分で好きなメニューを見られ、選んで食べていただいたり、生活に必要なものや新しく購入が必要なものなどは、誕生日個別外出の時に、御自分で好みにあった品物を選ばれ、購入していただけるように支援を行っている。</p>		
52		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者様が不安になられず安心して生活が送れるために、ご希望があれば、電話をかけるさせていただけるように、ご家族様に事前にご理解をいただき、ご協力いただいている。また年末にはご家族に自筆で、また難しい方は印判やシールなどを活用し年賀状を作成していただき、返事を楽しみにされるように支援している。お手紙や絵葉書などは、居室に飾り、目に入るように工夫している。</p>		
53	(23)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎月、季節を感じていただけるように、飾り作りや壁画をお一人おひとりの利用者の持つ力で共同制作を行い、1ヶ月ごとに室内の装いに变化を持たしている。ここが我が家のように居心地よく、楽しくくつろげるために、家具の配置やソファの位置等、安心出来る雰囲気作りを工夫している。</p>	<p>食堂兼居間の天井は高く、明かり取りから入る陽ざしで程よい明るさとなっている。利用者の状況に応じてテレビやテーブル、ソファの配置を工夫して利用者がくつろげるよう配慮している。季節の花が活けてあり、利用者の笑顔の写真や手芸ボランティアと一緒につくった下げもんや鯉のぼりの作品などが飾っており、季節を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの席は特に決めておらず、気の合う方とお好きな場所で過ごされることができ、気分転換にソファや椅子も多く設置している。また集団レクや創作活動等ではテーブルの配置を変え、1つのテーブルに集まれるようにし、利用者同士が交流を持てる様に工夫を行っている。一人になりたい時にも、ご自分で移動できるように手すりの位置や家具の配置などを考え、集団生活の中もおひとりおひとりが居心地のよい空間づくりに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、ご自宅より持参された馴染みのものを配置して、お一人おひとりの生活のしやすい環境を個別で検討している。またお好きなものや作品などを目に付く場所におけるようにしている。居室入口には表札があり、居室にも写真やカレンダーを飾り、ご自分のお部屋に愛着が持てるように工夫している。鏡台や化粧品もあり、身だしなみを整えられる方もおられ、個性を活かせる居室作りを心掛けている。	各居室にはテラスがあり、自然の景色を眺めることができる。室内にはダンス、机、椅子、衣裳掛け、鏡台、化粧品、生活用品などの使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真や人形、カレンダー、手芸品を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様各々の、できる力を発揮していただけるように、身体状況に合わせたテーブルや椅子の配置を工夫している。また、必要な福祉用具等の検討もしながら、安全に生活を送られるように支援を行っている。出来る事、出来ない事は職員一人ひとりが把握し、出来る事は見守り、できないことは声かけをしながら、見守り、必要な支援を行う様に努めている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム自由の杜

作成日: 平成 30 年 10 月 31 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時の対応や感染症対策方法など研修等で学ぶ事はあるが応急手当や初期対応の実践力は全職員が身につけるには至っていない。	全職員が応急手当や初期対応についてスキルアップ出来る。	職員全員が急変等適切に対応できるようになるために、定期的にテーマを決め、訓練を継続する。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。